

単独の高齢者部会が開催

総会后、さっそく7月25日(日)に小楠コミュニティーセンターで12人が参加し、高齢者の見守りについて話し合われました。今回は災害時の見守りが主に話し合われました。

- ・高齢者の計画の中に災害時の避難を盛り込むようになっているが、なかなか地域とつながれていない(三光園)
- ・避難を支える側も年齢が上がっているので不安
- ・避難を考える時に若い人のいない日中と、夜の避難どちらも考える必要がある
- ・自治委員、民生委員が協力して考えていく必要がある
- ・日常の見守りでは、なるべく顔を見て様子を確認し、日頃から気にかけておく
- ・高齢者部会だけでなく、防災部会とも一緒に考えていく必要がある

などの意見が出されました。今後も独自の部会を開催しつつ、情報交換を図っていくとのことです。



第4次中津市地域福祉計画・地域福祉活動計画づくりが始まります

この計画は5年に一度、作られる計画で、地域で暮らす住民の意見をもとに「誰もが暮らしやすい地域とは」をテーマに作られる計画です。

今回は、小楠地区にお住まいの約60名の方々に「ちいきの“つながり”アンケート」にご協力いただきました。また中学生にも答えていただきました。その結果をもとに問題点を整理し、今後解決していくこと(課題)を明らかにする話し合いを行います。計画は今年度末に仕上がる予定です。状況はまた、この広報紙でお知らせしたいと思います。

ちよっとちよといき

7月から資源ポラの回収がはじまりました。いざ分別してみてもビックリ!! 出るゴミのほとんどがプラゴミ...なんと燃えるゴミの2倍!! 私たちの生活がどれだけプラスチックにまみれているかをあらためて感じました。

ただいま、おかえりって
言いあえるまち なかつ



NCRP

なかつシトラスリボンプロジェクト

シトラスリボンプロジェクトとは?

いつ誰が感染してもおかしくないこのコロナ禍、たとえ感染しても地域の中で笑顔の暮らしを取り戻せるよう「ただいま」「おかえり」と受け入れられる雰囲気をつくり、思いやりがあり暮らしやすい社会を目指す活動です。

リボンの3つの輪は「地域」「家庭」「職場(または学校)」を表現しています。

思いもよらずコロナに感染してしまうと体力的はもちろん、精神的にもダメージを負ってしまいます。それだけでもきつい状況なのに、さらに不当な差別や偏見に悩まされてしまうケースも少なくありません。これは周囲の強い自己防衛が引き起こす行動だとは思いますが、いつ自分がその立場になるかわかりません。お互いを思いやり、支えあいながらこのコロナ危機を乗り越えていくことが求められます。

先日、高齢者施設でクラスターが発生。その際、小楠小学校との暖かいやりとりがありました。

本年始めに発生した新型コロナウイルスのクラスターでは、大変ご心配をおかけしました。職員一同は必死に介護や援助に努めて参りましたが、その中で誹謗中傷や謂れの無い差別などを受けることもありました。しかし同時に、多くの皆様からの温かいお言葉や支援の物資などが寄せられました。私達はどれだけ励まされ、前を向いて進む力をもらえたか判りません。特に同じ校区の皆様や小楠小学校の校長先生からの応援メッセージは「地域からのエール」として、強く心に響きました。

皆様の温かいお支えに心から感謝申し上げます。

ガーデンヴィラおぐす施設長 八田淳子

施設の悲しい現状に心を痛めた校長先生はメッセージを送られました。その後、さっそくシトラスリボンプロジェクトに賛同、今年卒業した6年生は自分たちで作ったシトラスリボンをつけて、卒業式に参加しました。式にはガーデンヴィラおぐすからお祝いのお花が届いたそうです。

その後も他の学年でシトラスリボン作りに取り組んでいます。手を動かしながら相手のことを思いやる、生きた学びにつながっているようです。

